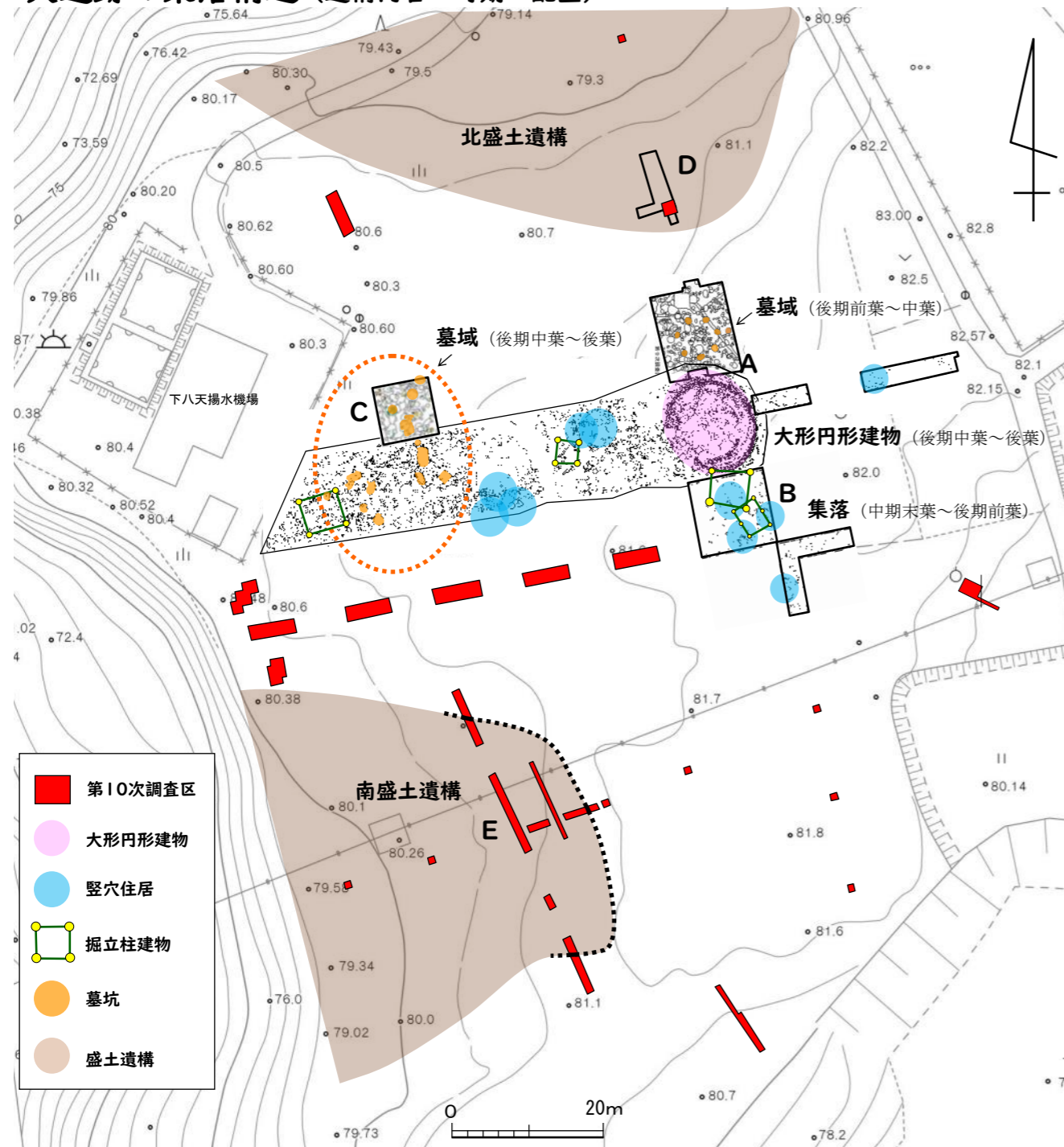


八天遺跡の集落構造 (遺構内容・時期・配置)



南盛土遺構 (今年度調査)



北盛土遺構 (令和3年度調査)

八天遺跡第10次調査の概要

○調査の成果

縄文時代の土坑約200基、土器埋設遺構2基、盛土遺構1か所、中世(館跡)の堀2条を検出しました。台地の西側で見つかった柱穴(後期前葉)からは、炭化した木の実(クリ?)や腕輪形土製品が出土しました。建物が廃絶された後に、何らかの儀礼が行われた可能性が考えられます。

台地の南側で見つかった盛土遺構では、中期末葉～後期の土器が大量に出土しました。縄文人が土器や石器、焼土などを継続的に廃棄した結果、谷部が埋め立てられたものと考えられます。表土が薄いことから後世に削平されたとみられ、文字通り地面より高く「盛土」されていた可能性も考えられます。なお、昭和52年に台地南端で調査された包含層は、後世の流れ込みと判断されます。

○集落構造との関係性

4年間の調査で、盛土遺構が台地の南北に存在し、それらに挟まれるように数多くの遺構が分布することが明らかになりました。盛土遺構は度重なる「もの送り」、あるいは谷状地形の埋め立て(造成)の結果形成されたと考えられます。

中期末葉～後期初頭(約4500～4200年前)に最初の本格的な集落が営まれます。複式炉を備えた竪穴住居跡と貯蔵穴が数多く分布します。今回確認された2基の土器埋設遺構は、複式炉の一部である可能性が考えられます。

後期前葉(約4200～4000年前)になると、掘立柱建物跡が出現します。柱穴が大きく深いことから、大規模な建物が何棟か存在したとみられ、この時期に集落構造が変化したと考えられます。今回の調査でも大形柱穴が4基確認されました。

後期中葉～後葉(約4000～3200年前)には大形円形建物が営まれました。この建物は建て替えを繰り返しながら長期間存続しました。台地の西側では、配石遺構や焼けた人骨を集めた墓坑などが確認され、一帯が墓域であったことを示しています。墓坑から見つかった耳・鼻・口形土製品は、死者に対する供物あるいは儀式的結果として副葬されたものと考えられます。今回の調査でも墓穴の可能性のある土坑が2基確認されました。



竪穴住居跡 (令和2年度調査)



大形円形建物跡 (昭和51年度調査)



配石遺構 (令和3年度調査)

令和5年10月21日(土)

北上市教育委員会教育部文化財課



縄文時代後期前葉の柱穴



台地中央部で見つかった柱穴（今年度調査）



掘立柱建物跡の柱穴（令和2年度調査）

後期前葉と考えられる柱穴は、①直径50～60cmの柱痕跡が明瞭に認められる、②柱痕跡外の埋め戻し土には大量の火山灰粒（パミス）が混ざっている、③直径・深さともに1m以上の大形のものが多いという3つの特徴があります。今回見つかった柱穴にも同様の特徴を示すものが認められます。台地中央部付近で確認された柱穴の柱間は約2.2mで、同時期の掘立柱建物跡と比べると少し規模が小さいことが分かりました。



炭化物と腕輪形土製品が出土した柱穴（今年度調査）



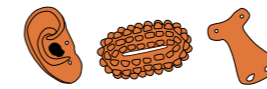
腕輪形土製品の出土状況（今年度調査）

台地の西側では、柱痕跡に大量の炭化物を含む柱穴が2基確認されました。中には木の実（クリ?）も含まれており、注目されます。

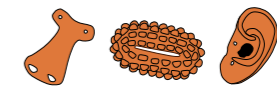
炭化物より下層からは腕輪形土製品が出土しました。この土製品は砂粒の少ない精製された粘土で作られており、縄文人にとって特別なものであったことがうかがわれます。もし本当に腕輪であるとすれば、径が小さいため、手首の細い人しか着用できなかったと考えられます。



腕輪形土製品の着用状況



盛土遺構



南盛土遺構（今年度調査）

「盛土遺構」は、縄文人が土器や石器、炭や焼土等を継続的に廃棄することで形成されています。本来南盛土遺構がある場所は、西に向かって傾斜する谷部でしたが、廃棄行為の繰り返しによって埋め立てられています。

今回の調査では、分布範囲を特定するために複数の調査区を設定しました。その結果、南北34m以上、東西32m以上の大規模な盛土遺構であることが分かりました。断ち割ってはいませんが、ボーリング棒調査の結果、厚さ40～50cm程度の遺物包含層の存在が想定されます。

最上面から見つかった遺物の時期は、東は古く（中期末葉～後期初頭）、西は新しい（後期中葉）傾向にあります。また東は表土が薄いことから、後世に盛土遺構の上部が削られた可能性が考えられます。一方西は表土が厚いことから、縄文時代には谷部が埋まり切っていなかった可能性もあります。



北盛土遺構（令和3年度調査）



台地南端の包含層（今年度・昭和52年度調査）

過去の調査では、台地南端にも包含層があるとされてきました。そこで今年度再調査した結果、この包含層は北と南の盛土遺構とは比較できないほど薄く、遺物の量も少ないことが分かりました。台地が南に向かって傾斜しているため、そこに遺物が流れ込み溜まったものと考えられます。また土層の堆積状況から、縄文時代よりも後に形成されたことも分かりました。このことから、八天遺跡の盛土遺構は、北と南の2か所のみであると結論付けられます。